



地域リハビリテーション支援センターだより

(神奈川県リハビリテーション支援センター)



2021年 12月発行 NO-87

地域リハ支援センター



2021年 11月10日～12日

国際福祉機器展



東京ビッグサイト青海展示棟にてHCR2021が開催されました。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い実際の展示は中止され、Web 展示会として行われました。今年は2年ぶりの実際の展示開催となります。

今年の開催規模は、HCR公式発表で来場者数 39,647 名、出展社数 215 社でした。ちなみに2019年度のHCRの来場者数は、105,675 名、出展社数 438 社でした。海外企業の出展も2019年には39社の出展がありましたが今年は、7社と少しさみしく感じました。また会場もビッグサイト展示場から青海展示棟といつもと違う会場になり、迷った方もいたようです。ちなみに例年の展示ホールに比べて面積が47%程度だそうです。

入場の際には、検温、アルコール消毒、マスクの着用チェックがありました。会場内では、事前登録で来場時間の登録が行われ調整されているからなのか、例年のような人のかき分けて見学するようなことはなく、ゆっくりと各社のブースを見学することが出来ました。



写真は2日目のお昼頃の入場風景ですが、ゆったりとした感じが伝わるとと思います。

今年の展示の傾向は、小さなブースが多く例年のような、大手自動車メーカーによる巨大ブースは少ないと感じました。

各ブースでは、業務に即使用できそうな機器や物品、業務管理ツールなど身近なものが多く、来場者制限やブース数の数が少ないおかげなのかじっくりと各ブースを見学でき、説明や質問も例年より身近に感じながらすることができました。

2022年のHCRは、2022年10月5日(木)～7日(金)にかけ、東京ビッグサイト東展示ホールで行われる予定と発表されています。

新型コロナウイルスの変異株が世界で騒がれている最中ですが、何とか2022年には落ち着き、次世代の福祉機器を生で見学できることを期待しています。

地域リハビリテーション支援センターでは、専門相談や専門研修において、最新の情報を提供できるようスタッフ全員が日々努めております。来年も利用しやすい、利用して良かったと思われるよう、ご利用者様本位のサービスを心掛けてまいります。



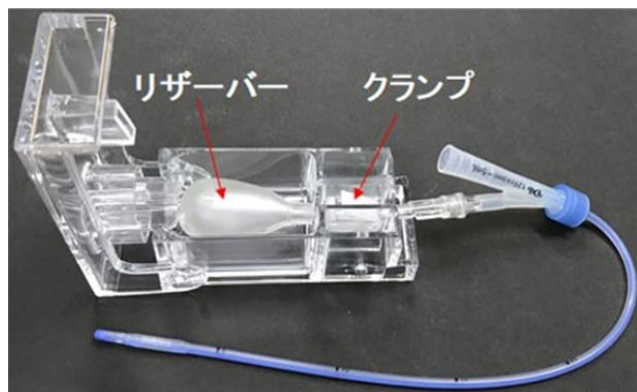
次ページでは、スタッフが気になった製品を紹介しています。
ぜひご覧ください！

(磯部 貴光)

ちょっと気になる?! 福祉機器のご紹介

バルるん ～間欠式バルーンカテーテル用自助具～

吉備高原医療リハビリテーションセンター（写真はHPより引用）



頸髄損傷、四肢麻痺で自己導尿を行っている方の中で、夜間は間欠式バルーン（ナイトバルーン）を使われている方は少なくないのではないのでしょうか？

カテーテル部分の挿入はできても外部の風船（リザーバー）を手でつぶしてクランプで止める動作は当事者以外の誰かに介助してもらっているかと思います。

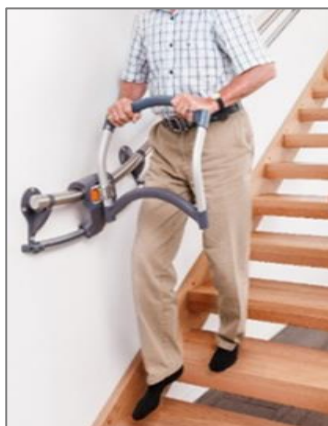
この「バルるん」はカテーテル挿入後のナイトバルーン固定について当事者の方が少しでも自立できるように考案されたものです。

動作的にはウロパックを接続する必要もありますが、クランプ部を解除する機構もついていて、就床・起床動作の役に立つのでは…と思いました。（小川 淳）

アシステッフ ～階段用の補助手すり

大同工業株式会社（写真はHPより引用）

階段の壁に専用レールを取り付けるだけで設置可能です！（電源工事也不要です）



屋内階段の手すりは構造上片側に横手すりを設置することが多く、対象者の身体機能によってそれでは支持性が足りない場合があります。

この商品は歩行器のように正面から両手で支えることが可能になります。実際にデモ機で階段昇降を試しましたが、重さがかかる降りの場面でも支持性があり動きもスムーズに感じました。

通常の階段の手すりの補強で設置可能とのことなので、選択肢の1つになるのではないかと思います。（小泉 千秋）

ホバーマット

株式会社名優（写真はHPより引用）



体位変換・移乗・除圧ができるマットレス
（仰臥位～側臥位、腹臥位などもらくらく!）

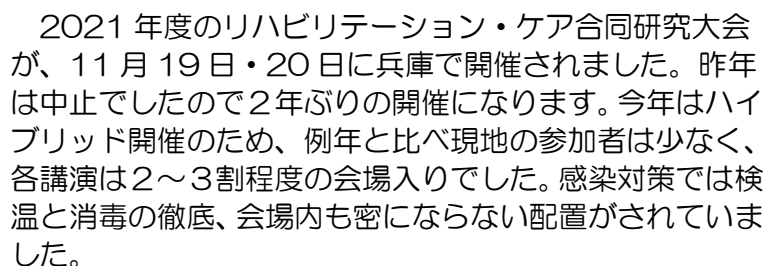
患者様を掴んだり抱え上げる必要がないため介助が2～3人で行うことができます。また、疲労軽減・腰痛対策になります。

会場でデモンストレーションをみせてもらいました。エアーのボタンを押すとあっという間に空気が入り、すぐにセッティングが完了しました。大柄の男性が患者役で小柄な女性2人が介助者役で行っていましたが「スッ」と動かすことができていました。私も動かす体験をさせてもらいましたが、その軽さにびっくり!! 力を入れずに手前に引くだけ…。今までの苦労はなんだったのだろうと思うぐらいの「スッ」でした。

実際にコロナ患者受け入れ病院に導入されており、さまざまな管につながれている患者様の体位交換に6～8人必要していたのが、ホバーマットの導入により3人介助で可能になったそうです。

動かしやすく、それが除圧効果にもなるなんて、在宅介護をしている方にもぜひ体験していただきたいと思える製品です。気になる方はぜひホームページを覗いてみてください！（清水 里美）

兵庫 2021



講演では、地域包括ケアシステム構築を目指したリハビリテーション支援体制について、2市町村から具体的な活動の報告がありました。その中でリハ職に対する提言として、運動支援だけに終わらない継続的な地域との関係づくりの重要性が挙げられていました。当支援センターは活動範囲が広いですが、地域と顔の見える関係性を作る活動を行えればと思います。

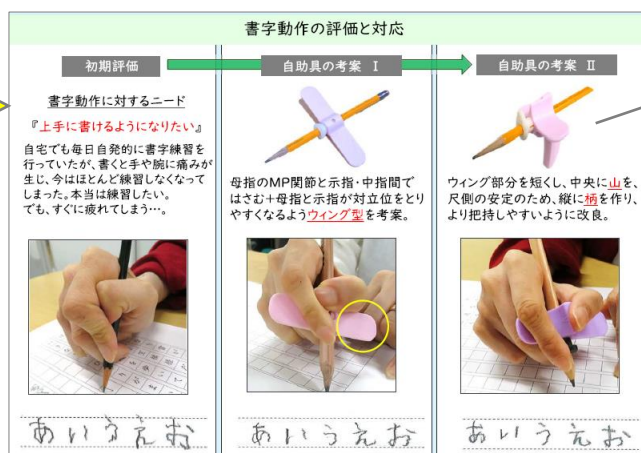
一般演題では、兵庫県のリハビリテーション職における地域支援事業活動の効果についての報告がありました。兵庫県では7年前より地域事業に関わるリハ職の登録制を開始し、その中から個々の事業ごとに募集をしているとのことでした。病院のセラピストも地域事業に関わることで、病院での業務に役立ったとの意見が多いとのこと、地域の活動に関わる必要性を感じました。今後の活動の参考にしていければと思います。

(小泉 千秋)

ポスター発表で参加しました！

小脳出血の後遺症で、手指に失調症状（ふるえ）がある患者さまで、字がうまく書けないとお悩みでした。写真のように手の構えが安定するような形の自助具を考案し、試行錯誤をくり返しながら写真の形に落ち着きました。

現在も月1回の外来でより書きやすい形状となるように試行錯誤しています。



過剰に握り込まずに、
動的3指つまみと
なるような形状を
目指しました。

わたしは現地には行かず、オンライン発表で参加しました。
ポスターを現地に送り展示していただき、オンライン上でも同じポスターが閲覧
できるというシステムでした。質問もメールでのやりとりになるので臨場感を
感じられず、やはり対面でお話しをしながら発表できたらよかったな…、と
思いました。

（清水 里美）

足柄下郡三町(湯河原・真鶴・箱根) 地域への広報活動について

当支援センターでは神奈川県政令市以外の市町村からリハビリテーション専門相談を受け付けております。現在、専門相談はコロナ禍の余波もあり、相談件数が少ない状況であり、相談のほとんどが当センターの厚木近辺、県央地区からの相談です。かつて当センターでは県のモデル事業で足柄上地区での活動実績はあるのですが、湯河原、真鶴、箱根の足柄下地区からはほとんど専門相談がありません。

そのため当センターの周知を行う目的で、足柄下郡の3町の地域包括支援センターへ訪問させていただいています。各町とも障害福祉分野は小田原市の相談支援事業所とネットワークがあり、医療についてはその地域、地区で最もアクセスしやすい医療機関に通うなど特殊な地域の実情があります。

地域包括支援センターでお話をお伺いして、地域包括ケアで解決できない事例があるか、また当センターの専門リハのノウハウを地域で生かせる場を、今後一緒に検討していくこととお話しています。

昨今のコロナ感染の状況で、各地域の支援者の方々はまだまだ地域の中での活動で手一杯とも思われますが、専門相談は通常どおり相談を受け付けております。ご相談をお待ちしております。(小川 淳)

	障害者更生 相談所	居宅介護 支援 事業所	市町村	地域包括 支援事業所	本人・家族 相談支援事 業所	障害者 相談支援事 業所	障害者施設	医療機関	訪問看護 事業所	保健福祉 事務所	高齢者施設	訪問介護 事業所	教育機関	その他	合計
県央		13(3)	2	1	2	5(1)	12(4)	2	3(1)		1				41(9)
湘南東部							1			4(1)					5(1)
湘南西部		1		1	1	2			1		1				7
県西					2	3		1	1						7
横須賀・三浦			1	1	4	4(1)		1							11(1)
合計		14(3)	3	3	9	14(2)	13(4)	4	5(1)	4(1)	2				71(11)

()の数字は訪問の件数

	神経・筋疾患	脊髄障害	脳血管障害	骨関節疾患	後天性脳損 傷(除くCVA)	脳性麻痺	知的障害	視覚障害	その他(切 断・加齢等)	不明	合計
県央	14(3)	1	4(1)	2	3	5(2)	9(3)	3			41(9)
湘南東部	4(1)						1				5(1)
湘南西部	2	1	2		1				1		7
県西	1	2				2		2			7
横須賀・三浦	2	1					2(1)	4	2		11(1)
合計	23(4)	5	6(1)	2	4	7(2)	12(4)	9	3		71(11)

**2021年
4月~11月
専門相談件数**



2022年 1月~2月 リハビリテーション専門研修

研修名	開催日時	定員	会場(研修形式)
高次脳機能障害セミナー 就労支援編	1月22日(土)	40人	オンライン研修
視覚障害のある方への支援	1月26日(火)	10人	神奈川県総合リハビリテーション事業団
脳血管障害の評価と治療	1月29日(土)	16人	ウィリング横浜 または オンライン
セラピストのためのハンドリング入門	2月5日(土)	20人	プロミティあつぎ または 中止
からだにやさしい介助入門 ポジショニング編	2月9日(水)	20人	ウィリング横浜 または オンライン
障害のある方の在宅就労支援	2月19日(土)	30人	オンライン研修
摂食嚥下障害のリハビリテーションの実践	2月23(祝・水)	20人	ウィリング横浜 または オンライン

コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインに変更・または中止となる場合がございます。詳しくは、ホームページでご確認ください。

編集後記

今年も残すところあとわずか。
毎年この時期になると時間のたつ早さに驚きます。
今年の漢字は「金」だそうです。前代未聞の無観客の東京オリンピックでしたが、過去最高の数の金メダルにテレビにくぎ付けになりました。2月の冬季オリンピックも楽しみです。ね♪
今年も大変お世話になりました。来年度も地域リハビリテーション支援センターの活動に、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。(砂川)

〒243-0121
神奈川県厚木市七沢 516
神奈川県総合リハビリテーション事業団
地域リハビリテーション支援センター
☎ 046-249-2602
FAX 046-249-2601